

ニッペ 1液ファインフッソUV

施工上の要点及び注意事項 (詳細な内容については、各商品の製品使用説明書などにてご確認ください)

- 弾性タイプ(JIS A 6909 防水形複層塗材E/RE)の上塗りに使用する場合は、必ず弾性添加剤を規定量添加しうえでご使用ください。なお、高弾性タイプ(JIS A 6021 建築用塗膜防水材料)への使用はお控えください。
- つや調整品を使用する場合は上塗り1(中塗り)に「つや有り」をご使用ください。つや調整品を2回塗りしますと、つやむらが生じることがあります。
- 蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- 鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。
- つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
- つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
- 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをし確認してください。
- つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
- 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- 著しい汚染が発生しそうな箇所には、状況に応じてニッペクリスタコートオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができます。
- 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願いします。
- 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- 異なる色相を塗り重ねる場合(例：1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など)2回目の上塗りが1回目の上塗りを傷してラインや帯などが変色(ブリードにより)する場合がありますのでご注意ください。
- 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこなっておく必要があります。
- 内部塗り替えにおいて旧塗膜がOP、FEなどの油性系の場合、研磨すりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。

- 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ1液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。
- シーリングの上記、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- やにか著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し被塗表面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥(目安23℃、6時間)させてから2回目の塗装をすることでやに止め性が向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗表面を十分乾燥させてから塗装してください。
- 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケット科学社製HI500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
- 表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目遣い、ジャンク、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッペ1材カチオンファイバー、ニッペファイバー200)などで処理してください。(合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください。)
- 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- 素材にセメント成分などが使われている場合は、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので溶剤系シーラーをご使用ください。
- 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ1液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- 塗装直後から頻りに人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
- 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- 塗装時および塗料の取り扱いは、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- スチールドア枠回りなどシーリング材との接触が起こる部分への塗装は避けてください。可塑剤の移行などにより塗膜が軟化、は

- く離し、シーリング材の機能を損なう可能性があります。
- 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 薄めすぎは隠べい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠べいできない場合があるため、事前に試験施工塗り板等でご確認ください。
- 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所に使用する場合は、ファイナシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- 中濃彩色の、特につや調整品の場合、擦過場や摩擦した部分の色が違って見える事がありますので、ご注意ください。
- 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
- 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- クロスの上の塗装は避けてください。
- ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- 可塑剤が多く含まれる塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

安全衛生上の注意事項 (ニッペ 1液ファインフッソUV)

横倒禁止

- 本来の用途以外に使用しないでください。
- 使用前に取扱説明書を手入してください。
- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないでください。
- 熱・火花・炎・高温のもののような着火源から遠ざけてください。一禁煙です。
- 容器を密閉しておいてください。
- 容器を接地/アースをとってください。
- 防煙型の電気機器/換気装置/照明機器を使用してください。
- 火花を発生させない工具を使用してください。
- 静電気放電に対する予防措置を講じてください。
- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないでください。
- 取扱後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用してください。
- 必要な時以外は、環境への放出を避けてください。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用してください。
- 気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けてください。
- 緊急の特別な処置が必要な場合は実施してください。
- 口をすすいでください。
- 容器からこぼれた時には、布で拭き取って水を張った容器に保管してください。

- 漏出物を回収してください。
- 皮膚または髪に付いた場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱いでください。皮膚を流水かシャワーで洗ってください。
- 吸入した場合: 気分が悪い時は、医師に連絡してください。
- 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。
- 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。
- ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当を受けてください。
- 皮膚刺激を生じた場合: 医師の診断/手当を受けてください。
- 眼の刺激が続く場合は: 医師の診断/手当を受けてください。
- 汚染された衣類を脱いで、再使用する場合には洗濯してください。
- 火災の場合: 消火に適切な手段を使用してください。
- 施設して保管してください。
- 換気の良い場所で保管してください。容器を密閉しておいてください。
- 換気の良い場所で保管してください。涼しいところにおいてください。
- 直射日光や水濡れは厳禁です。

- 塗料等の缶の積み重ねは3段までとしてください。
- 容器は、つり上げないでください。やむを得ずつり上げるときには、適切なつり具で、垂直に持ち上げ、落下に十分注意してください。(偏荷重になると取っ手が外れ、落下事故の危険があります。)
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上(スプレー缶の場合は40℃以上)の温度にはく露しないでください。
- 内容物/容器を国/地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
- 上記の表示は、一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。
- 詳細な内容、表示例以外の商品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

- 引火性液体および蒸気
- 皮膚刺激
- 強い眼刺激
- 発がんのおそれの疑い
- 生殖能力または胎児への悪影響のおそれ
- 呼吸刺激を起こすおそれ、または、眠気やめまいのおそれ
- 長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害のおそれ
- 水生生物に非常に強い毒性
- 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

日本ペイント株式会社

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 北海道支店 ☎ 011-370-3101 | 近畿支店 ☎ 06-6455-9608 |
| 東北支店 ☎ 022-232-6712 | 中国支店 ☎ 082-281-2180 |
| 関東支店 ☎ 03-5479-3614 | 四国支店 ☎ 0877-56-2346 |
| 北関東信越支店 ☎ 03-5479-3614 | 九州支店 ☎ 092-751-9861 |
| 中部支店 ☎ 052-461-1960 | |

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名「ビュアライド」: 会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ©Copyright 2018 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <http://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.
NP-W116

AA181005T
2018年10月現在

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆



ターペン可溶1液形フッ素樹脂系塗料

ニッペ 1液ファインフッソUV

ONE PACK FINE FLUORINE UV



1液で使いやすい
フッ素樹脂塗料が誕生。

NIPPON PAINT CO.,LTD.

ターペン可溶1液形フッ素樹脂系塗料

ニッペ 1液ファインフッソUV

ONE PACK FINE FLUORINE UV

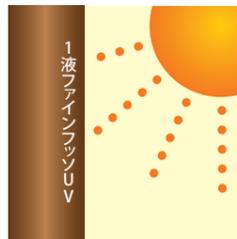


特長

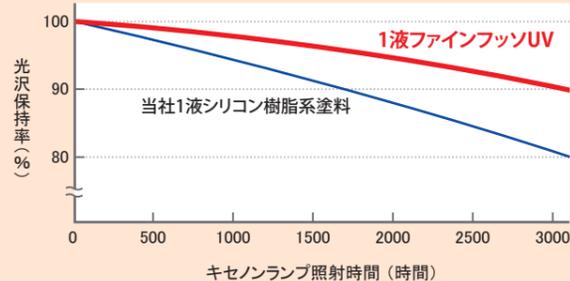
ニッペ1液ファインフッソUVは、4フッ化フッ素の構造に基づく非常に優れた耐候性を有します。4フッ化エチレンを成分とするフッ素樹脂を配合した、まさに究極を目指したフッ素樹脂系外壁塗料です。

1 高耐候性

4フッ化フッ素樹脂を使用しているため、緻密で強力に結合した分子構造の働きで、外壁の劣化を最小限におさえ、高い耐候性を発揮できます。



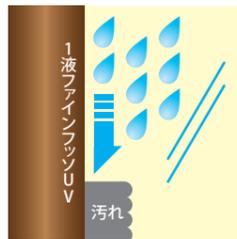
[促進耐候性試験結果]



2 低汚染性

お家の外観を美しく保つことができます。

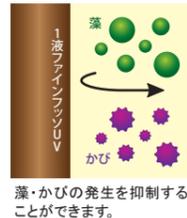
塗膜表面を親水化していることで、外壁の汚染に対し、優れた効果を発揮することができます。



雨水が汚れの下に入り込み、汚れを浮かせ、そのまま流れ落とすことができます。

3 環境にやさしい

弱溶剤希釈タイプですので、環境にもやさしい塗料です。



4 防藻・防かび

藻・かびの発生を抑制することができます。

5 高光沢の美しい外観

高光沢で、かぶり肉持ちの良い高級感のある美しい仕上がりにできます。



6 抜群の作業性

塗装時の発泡がなく、抜群の塗りやすさです。乾燥性にも優れるので冬場の施工にも安心です。

7 1液架橋

2液の信頼性を1液常温反応硬化NAD技術で実現しました。硬化剤を入れる手間がないため、硬化剤の入れ忘れ、計量の煩わしさがありません。ポットライフ(可使用時間)がありませんので、塗料をムダにしません。

8 透湿性

透湿性があるため塗膜の膨れや剥離を抑制します。

9 多用途

各種外壁(サイディングボード、モルタルなど)、鉄部、硬質塩ビ、FRPなどの新設、塗り替えに幅広く適用できます。

主な適用 下塗り塗料

- 【外壁用】
- ニッペ 水性パーフェクトシーラー
 - ニッペ パーフェクトフィラー
 - ニッペ ファインパーフェクトシーラー
 - ニッペ パーフェクトサーフ
 - ニッペ アンダーフィラー弾性エクセル
 - ニッペ 水性シリコンエポサーフ
 - ニッペ DANフィラーエポ
 - ニッペ DANフィラーリフレックス

【鉄部用】

- ニッペ パーフェクトプライマー
- ハイボンファインプライマーII
- 1液ハイボンファインデクロ
- エスパワーワンエース

適用主材

- ニッペ タイルラックEMA-Sベース100K
- DANフィラーエポS ※弾性塗材の場合は、1液ファインウレタンU100弾性添加剤を添加の上、ご使用ください。
- ニッペ タイルラック1液EPO-Sベース

適用下地

- 塗り替え改修用
 - ・アクリルリシン
 - ・吹付けタイル
 - ・その他旧塗膜
- 鉄部
 - 窯業サイディングボード

※上記以外にも使用できる塗料がありますので詳細についてはお問い合わせください。
 ※フッ素および無機コーティングした窯業サイディングボードに塗装する場合は、ニッペ ファインパーフェクトシーラーをご使用ください。

塗料性状・荷姿

塗料名	色相	つや	容量	希釈剤	希釈率(%)	使用量(kg/m ² /回)	塗装方法
ニッペ 1液ファインフッソUV	各色	つや有り	15kg 3kg	塗料用シンナーA	3~8(1回目)	0.12~0.16	はけ、ウールローラー エアレススプレー
		7分つや有り 5分つや有り 3分つや有り			8~13(2回目)		

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
 ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

標準塗装仕様(塗り替え)

■サイディングボード面(サイディング用フィラーを用いた仕様)

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	ニッペ パーフェクトサーフ	1	0.20~0.40	3時間以上	水道水	2~5	はけ、ウールローラー
上塗り①	ニッペ 1液ファインフッソUV	1	0.12~0.16	3時間以上	塗料用シンナーA	3~8	ウールローラー
						3~8	エアレススプレー
上塗り②	ニッペ 1液ファインフッソUV	1	0.12~0.16	—	塗料用シンナーA	8~13	ウールローラー
						3~8	エアレススプレー

■コンクリート、モルタル面(弾性フィラーを用いた仕様)

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	ニッペ パーフェクトフィラー	1	0.50~0.90	4時間以上	水道水	1~5	砂骨ローラー
上塗り①	ニッペ 1液ファインフッソUV	1	0.12~0.16	3時間以上	塗料用シンナーA	2~5	タイルガン
						3~8	ウールローラー
上塗り②	ニッペ 1液ファインフッソUV	1	0.12~0.16	—	塗料用シンナーA	3~8	エアレススプレー
						8~13	ウールローラー
						3~8	エアレススプレー

※ニッペ パーフェクトフィラーをローラー施工する際に、高温時や風が強い場合などの乾燥が進むような条件下では、希釈率を上限値の範囲内で調整することをご推奨致します。
 (作業性や仕上がりの向上をさらに図ることができます。)

■一般鉄部

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺を含め入念に除去する。さびは電動工具や、サンドペーパー・研磨布などを用いて除去し、清掃する。						
下塗り	1液ハイボンファインデクロ	1	0.13~0.15	4時間以上7日以内	塗料用シンナーA	5~10	はけ、ウールローラー
上塗り①	ニッペ 1液ファインフッソUV	1	0.12~0.16	3時間以上	塗料用シンナーA	3~8	はけ、ウールローラー
						3~8	エアレススプレー
上塗り②	ニッペ 1液ファインフッソUV	1	0.12~0.16	—	塗料用シンナーA	8~13	はけ、ウールローラー
						3~8	エアレススプレー

※一般鉄部には上記のさび止め塗料以外に、ハイボン20デクロ、エスパワーワンエース、ハイボンファインプライマーII、ニッペ パーフェクトプライマーも使用できます。
 ※さびが発生しやすいエッジ部もしくはさびが発生している箇所を塗装する場合、入念なケレン後、下塗り塗料(さび止め塗料)で部分補修塗りをしてから下塗りしてください。

■硬質塩ビ、FRP部

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパーなどで目荒らしを行う。						
上塗り①	ニッペ 1液ファインフッソUV	1	0.12~0.16	3時間以上	塗料用シンナーA	3~8	はけ、ウールローラー
						3~8	エアレススプレー
上塗り②	ニッペ 1液ファインフッソUV	1	0.12~0.16	—	塗料用シンナーA	8~13	はけ、ウールローラー
						3~8	エアレススプレー

つや調整品を使用する場合は上塗り①(中塗り)に、「つや有り」をご使用ください。つや調整品を2回塗りしますと、つやむらが生じることがあります。

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。
 ※塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります。) ※旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。

標準塗装仕様(新設)

■ニッペ 1液ファインウレタンU100弾性添加剤を添加することでDANフィラーエポSの上塗りとして使用できます。

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法	
下地調整	ごみ、未硬化セメント粉末、砂じん、油脂分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清潔な面とする。							
下塗り	ニッペ 水性カチオンシーラー 透明・ホワイト	1	0.10~0.16	4時間以上	水道水	透明・無希釈 ホワイト:0~10	はけ、ウールローラー	
							はけ、ウールローラー	
中塗り	ベース吹き	DANフィラーエポS	1	1.40~1.80	4時間以上	水道水	5~8	タイルガン
	模様吹き	DANフィラーエポS	1	0.80~1.20	16時間以上	水道水	1~3	タイルガン
ヘッド押さえ	必要に応じてヘッド押さえを実施する。(押さえ用ローラーに塗料用シンナーAをつけ模様吹き工程直後から30分後凸部を押さえる。)							
上塗り①	ニッペ 1液ファインフッソUV + 弾性添加剤(※)	1	0.12~0.16	3時間以上	塗料用シンナーA	3~8	はけ、ウールローラー	
						3~8	エアレススプレー	
上塗り②	ニッペ 1液ファインフッソUV + 弾性添加剤(※)	1	0.12~0.16	—	塗料用シンナーA	8~13	はけ、ウールローラー	
						3~8	エアレススプレー	

※ニッペ 1液ファインフッソUV弾性仕様は、ニッペ 1液ファインウレタンU100弾性添加剤を必ず添加、混合して塗装してください。(塗料:添加剤=20:1)

カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただきますようお願いいたします。